

共生地域づくりプロジェクト通信

多賀城市新田三区

「共生地域プロジェクト通信第5号—特集多賀城のWell-beingのまちづくり—」を発刊します。

令和6年度から新たにスタートした宮城県多賀城市が進める「Well-beingをコンセプトにした幸せを感じる共生地域づくり」の取り組みを紹介し、今年度は、多世代が協働して地域の活性化を実現している八幡地区、新田三区、南宮地区の実践に注目し、その様子と特徴を学生が各地区の地域活動・行事の運営に参加しながら、関係者へのインタビューを試みながらまとめました。「楽しい居場所」「役割・活躍の場」「地域・人のつながり」「多世代の協働」「健康」がキーワードとして浮かび上がってきました。

世代を越えた絆でつながる新田三区

1 地域の宝！ 子どもが主役の夏祭り

(1) 夏祭りに参加させていただきました！

新田新後公園にて7月28日に開催された「子どもが主役の新田三区夏祭り」に参加し、取材させていただきました。夏祭りでは、様々な屋台と大人も子どもも楽しめる参加型イベントが数多くありました。私たち東北福祉大学の学生は、7月7日にあった夏祭り準備等の役員会・班長会の会議から参加させていただき、夏祭り当日も輪投げゲームとビンゴゲームの運営補助を行いました。夏祭り当日は地域住民の方々が私たち学生をあたたかく迎え入れてくださり、小中学生やご年配の方々など様々な世代の方と交流しながら、楽しむことができました。

(2) 防災クイズ

新田三区夏祭りの特色である「災害時の避難用リュックの中には？ むりえで発表コンテスト」では、子どもたちが災害時に必要だと考える持ち物に色を塗って、代表で選ばれた子どもたちがステージ上で何が必要だと思ったか、必要だと思った理由を発表し防災に対する意識づけを行っている様子がこの夏祭りの特徴のひとつであり、ほかの地区も参考にすべき点だと感じました。また、〇×ゲームでは多賀城市に関する問題が出題され、新田三区に住んでいても正解するのが難しい問題もあり、多賀城市についてより具体的に知るきっかけづくりになっており、地域全体で子育てを行っているように感じました。

(3) キーマンへのインタビュー

～印象に残った言葉～

私たちがインタビューさせていただいた際に、夏祭り実行委員長の羽田朋美さんがおっしゃっていた「今後、大学生も企画から参加してもらって一緒に運営をしていきたい」という言葉がとても印象に残りました。私たち学生も参加してみて、地域の方々と交流しながら楽しむことができたのがよかったです。ぜひ今後も参加させていただきたいと思いました。

(4) 新田三区の魅力

実際に夏祭りに参加してみて、新田三区の伊藤五郎区長さんをはじめ、夏祭り実行委員長を務めておられた羽田朋美さん、民生委員・児童委員の辻順子さんを筆頭に、若い世代の方からご年配の方まで幅広い世代の方が積極的に運営を手伝うだけでなく、夏祭りへ積極的に参加しているところが新田三区の魅力となる点であると思いました。また、役員会・班長会の会議の際には、活発な意見交換も見られ、共生地域づくりについて前向きに考えながら活動されている地域だと感じました。参加した子どもたちも楽しみながら、学習の場になっている様子が見られ、地域全体で子どもを育てているように見られました。このように、多世代がそれぞれの役割を果たしながら地域のために協力し合う姿は、地域の持続可能な発展と絆の強化につながると思います。



僕が持っていききたい防災グッズは…夏祭りの防災グッズ塗り絵の発表 (2024年7月28日)



新田新後公園の下見の様子 (2024年7月8日)



ビンゴ大会の手伝いをしている学生 (2024年7月28日)



子どもが大勢参加の夏祭り、ステージに集合！ (2024年7月28日)



防災グッズとして必要な二品をぬり絵でアピール (2024年7月28日)



輪投げで楽しく景品をゲット！ (2024年7月28日)



輪投げ参加の子どもに、名前確認などのお手伝い (2024年7月28日)



地域づくりに対する想いを深谷市長に伺いました (2024年7月28日)

2 地域の安全を守ろう！

(1) 地区内パトロール活動

令和6年9月7日、新田三区の「地区内パトロール活動」に参加させていただきました。区長の伊藤五郎さん、民生委員・児童委員の辻順子さんにインタビューを行いました。新田三区は、防犯・防災意識が高いということが特徴の一つとして挙げられます。この活動は、子どもたちの下校時間の見守りのために始まったもので、役員さん、班長さんが緑のベストを着用して下校中の子どもたちへの声掛けを行っています。この活動自体は平成24年頃から始まり、当時は班分けという仕組みはなく、週に2回ほど活動を行っていたそうです。しかし、現在は活動回数を増やすことや、地区全体をランダムに回るため、4つの班に分かれて活動を行っています。普段は

班ごとにパトロールを行っていますが、4班合同でパトロールを行うこともあり、今回私たちが参加させていただいたのは4班合同のパトロールでした。緑のベストを着用して歩いているだけでも不審者や空き巣防止になるため、堅苦しい雰囲気はなく、気軽に参加することができる雰囲気を感じました。

(2) 地域のつながりづくり

この活動は子どもたちの見守りだけでなく、地域のつながりづくりにもなっています。お散歩感覚で参加をする方もいらっしゃるそうで、「この活動に参加してみんなとお話するのが楽しみなの」、「子どもたちに「おかえり」と声をかけると「ただいま」と声が返ってきて、それが嬉しい」という参加した方の声も聞くことができました。この活動によって地区の方々と「顔見知り」に

なることで、役員、班長交代の際、次につなげていくきっかけになると教えていただきました。実際に歩いているときも、あいさつをしてくださる方や、「今日、パトロールなんだね」と声をかけてくださる方も多くいらっやっって、この活動によって実際に地域のつながりが生まれているということを感じることができました。インタビューの際に民生委員・児童委員の辻順子さんから「みんなでやっているという動きが大切なんです。」と笑顔で話していただき、地域のつながりを大切にしたいという思いが伝わってきたのと同時に、自分の住む地域を本当に大切にしているのだなということを感じることができました。

(3)「黄色い旗」の取り組み

新田三区では、「黄色い旗」の取り組みも行っていきます。これは、75歳以上の一人暮らしの方に「黄色い旗」を配布して、災害時には玄関先などの見えるところに旗を置いてもらい、それを見て安否確認ができるようにしようという取り組みです。実際、この活動の徹底は難しいそうですが、誰も取り残さず、みんなで助け合おうという区長さんの思いやりから生まれた活動なのだと感じました。



パトロールに出発だ～!!
地区内パトロール集合写真(2024年9月7日)



一緒に行きましょう! 地区内パトロールの道中にて
(2024年9月7日)



地区内パトロールへ学生も参加しました
(2024年9月7日)



地区パトロール、黄色い旗の説明について意見交換(2024年9月7日)

3日頃の備えが命を守る! 市総合防災訓練

(1) 総勢338人が防災訓練参加

新田新後公園にて11月9日に開催された市総合防災訓練に参加させていただきました。また、黄色い旗の活動を実施している方へ訪問させていただき、黄色い旗についてどう考えていらっしゃるのか取材させていただきました。防災訓練では、私たち学生が2チームに分かれ、消火訓練バケツリレーとテント設営の仕方について小中学生に向けて説明しました。

午前9時に災害警報が地区全体に流れると、各家庭で安全を考慮しながら地域の人々が新田新後公園に集まり、総勢338名の方が防災訓練に参加しました。私たちは、黄色い旗を掲げている一人暮らしのご年配の方のお宅を訪ね、黄色い旗についてどう考えているのかインタビューさせていただきました。黄色い旗について、「最近は一人暮らしを狙った犯罪も増えてきているため、狙われてしまうリスクがあるのが怖い」とおっしゃっており、その件について伊藤五郎区長さんは、「今後、黄色い旗を全戸配布に変更し、みんなでやることで更なる効果を期待したい」とおっしゃっていました。

(2) 実地訓練とごほうびの豚汁

地域住民の方々が集合した後、小中学生に向けて防災の知識を高めてもらうために、私たちが説明をしながら実際にテントの立て方や簡易担

架の作り方を行うと、真剣な表情で積極的に防災訓練に参加している小中学生が多くみられ、子どもたちからの防災への意識づけを徹底しており、一人一人が災害について真剣に考えていると感じました。防災訓練に参加していた中学生にインタビューした際に「初めて参加したけれど、自分でもできそうなことがたくさん見つけてよかった」と話していました。防災訓練の最後には、若いお母さんなどの協力のもと地域の方々で作ったおいしい豚汁もいただきました。

(3) 防災を通じた地域づくり

実際に防災訓練に参加してみて、夏祭り同様、防災への意識がとても高く、小学生の時から地域の方々から防災について教えてもらうことで身に付けることができるのは良い機会だと感じました。子どもたち自身も積極的に活動へ参加する意欲があり、地域の方々も子どもたちのためだけでなく、自分と周りの人のために防災訓練を行おうとする共助の心をもって行っていると感じました。黄色い旗の活動についても、課題だと思う点を拾い上げ改善を行っている様子に他地域とは違った行動力も見ることができました。役員の方々は、事前準備や炊き出しにも協力的であり、地域全体で防災訓練を運営しているように見られました。防災訓練を地区全体で行うことはコミュニティの強化だけでなく、災害時に連携した迅速な対応をとることができるため、それらを踏まえて地区で実施する新田三区は防災の意識が高いと感じました。



小学生と協力してバケツリレーを行う様子
(2024年11月9日)



豚汁あったまる～!
炊き出しの豚汁を頂く学生たち(2024年11月9日)



朝早くから炊き出しの準備を行っている役員さんの様子
(2024年11月9日)



訓練内容を新田三区 伊藤五郎区長が参加者に説明(2024年11月9日)



安全面を注意し、訓練用テント立てを全員で!(2024年11月9日)

森先生よりごあいさつ

伊藤区長をはじめ、民生委員・児童委員の辻さんを中心に、コミュニケーション豊かに、とても丁寧な自治会運営を進めている点と、防災・防犯活動を通して地域づくりにつながっている点が、新田三区の特徴です。自治会運営では、役員会、区長会、班長会までが行われ、その内容は記録されオープンに共有されることが、皆さんにとっても参加しやすい自治会活動につながっているように思いました。また、自治会を中心とした地区の防犯パトロールでは、子どもたちの下校時間に合わせた時間帯の工夫を行うことがあいさつできる関係性に発展したり、空き巣・不審者防止活動などの抑止力、皆さんが直接

顔を合わせて何気ない会話の中で地域の情報交換が行われるなど役割感の醸成にもつながっていると感じました。また、新田三区では、災害時の要援護者マップを策定しており、一人暮らしの高齢者の把握を進めるなど、見守りや何かあった時に助けてと言える関係づくりを、ご本人の同意のもとに進めている点は、安心につながる地域づくりの視点にも通じる地域活動です。11月には大規模な地区をあげての防災訓練が、土曜日にも関わらず小中学校との合同で開催され、解散時には豚汁がふるまわれるなど地域の多くの世代が関わり運営されている点が、同地区の地域づくりにおける特徴と言えます。

佐藤 夏帆 (ゼミ2年生)

新田三区での活動を通して、世代を超えた交流の大切さを感じることができました。地区全体が一丸となって、様々なイベントを実行することは容易ではないため、新田三区の共働力の高さを実感しました。今後、また私たちが活動に参加させていただくだけでなく、活動を企画・運営して地域の方々とさらに交流を深めたいと思いました。今回私たち大学生の活動にご協力いただいた新田三区の皆さん、本当にありがとうございました!

佐々木 遥香 (ゼミ3年生)

今回の活動を通して、新田三区の人々の繋がりや地域の魅力をたくさん見つけることができました。実際の活動やインタビューをしていく上で、「あいさつができる関係が広がることが大切」ということばが印象に残りました。様々な活動を通して幅広い世代の方々が繋がれる環境づくり、顔見知りになれる活動を行っている新田三区は本当に魅力的な地域だと感じました。私たちを受け入れてくださった新田三区の皆様から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

編集後記



Instagram



YouTube